

東北の観光施策について



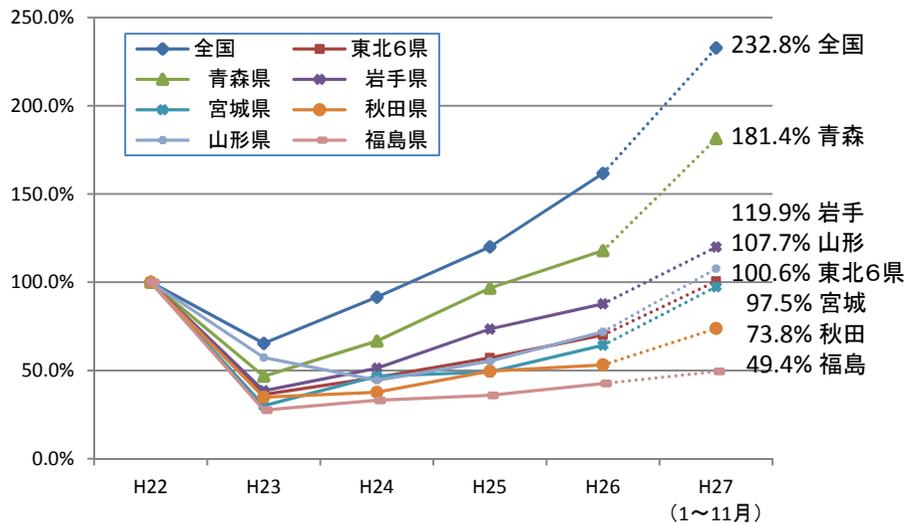
平成28年2月14日
東北運輸局

東北地域のインバウンドの現状

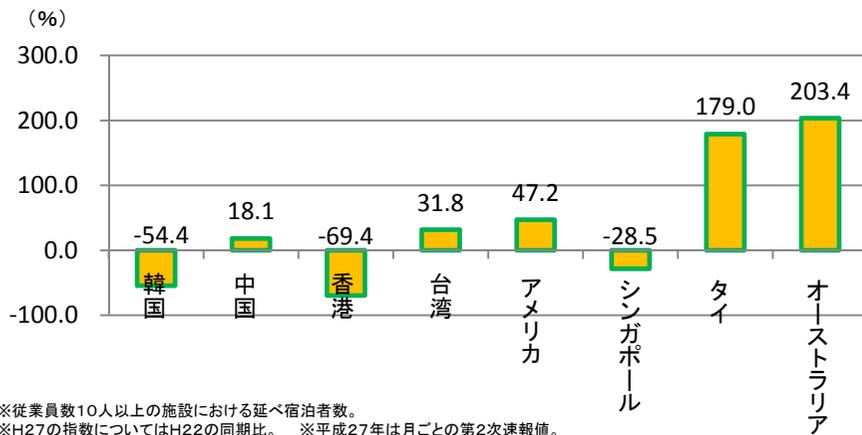


東北6県の外国人延べ宿泊人数の推移

東北6県の外国人延べ宿泊数は、震災前の平成22年の数値まで回復。



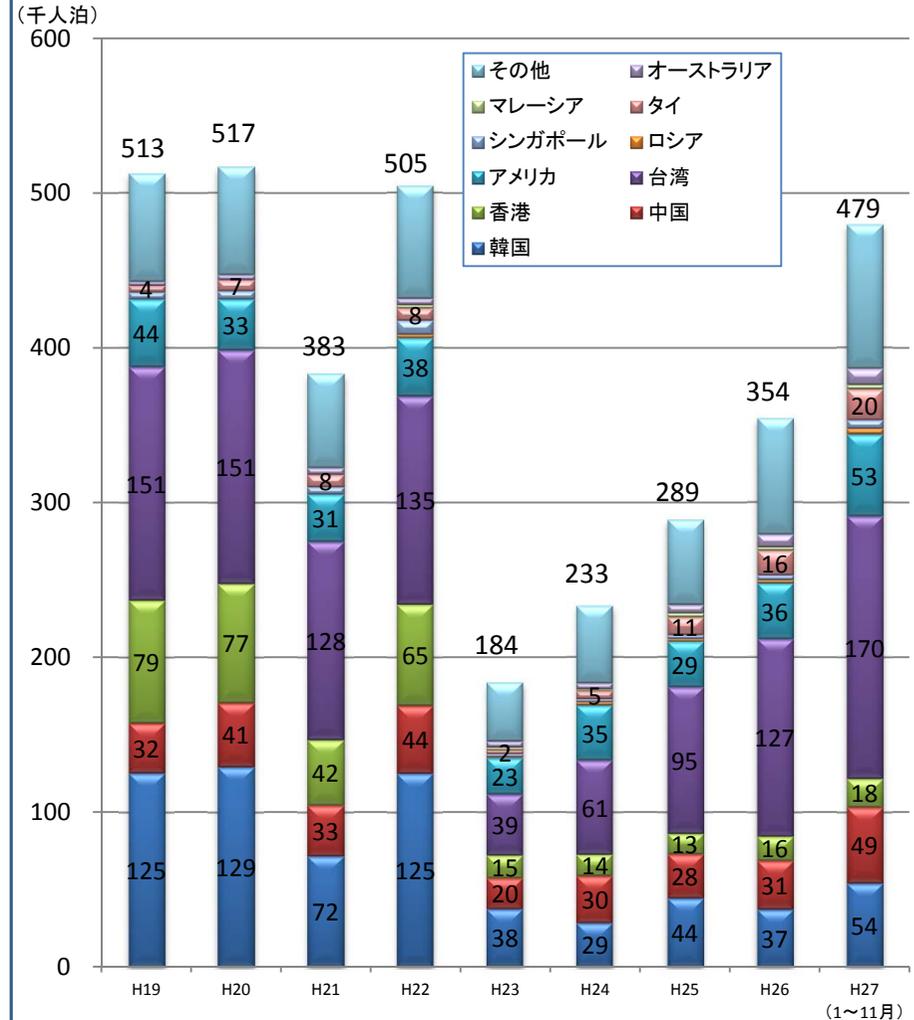
主な市場別の震災前との比較



※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数。
 ※H27の指数についてはH22の同期比。 ※平成27年は月ごとの第2次速報値。

東北地域の市場別延べ宿泊人数の推移

平成27年1~11月の延べ宿泊数は、平成22年同期比で台湾は増加。一方、韓国、香港は未だ回復傾向にない。



※従業員数10人以上の施設における延べ宿泊者数。
 ※平成27年は月ごとの第2次速報値。

広域観光周遊ルートの形成促進

- 複数の都道府県を跨がって、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地を、ネットワーク化して、外国人旅行者の滞在日数に見合った、訪日を強く動機づける「広域観光周遊ルート」の形成促進。
- 「日本の奥の院・東北探訪ルート」では、マーケット調査、外国人モニター調査等を通じて、3月末までにルートの設定を行う。

日本の奥の院・東北探訪ルート “Exploration to the Deep North of Japan”

○申請者：東北観光推進機構

○名称

「日本の奥の院・東北探訪ルート」
“Exploration to the Deep North of Japan”

○副題

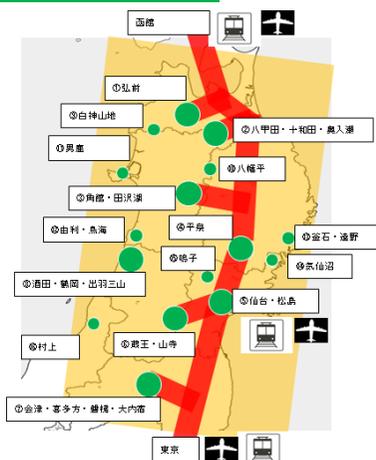
『もう一つの日本・東北 山の彼方の美しい四季と
歴史文化、食文化を探訪するルート』

○コンセプト

色彩あざやかな四季を奏で、多くの文人を魅了してきた美しい自然と風土が育んだ歴史文化と食を
探訪する旅

○主な対象市場・ターゲット

台湾、香港、中国(上海・広州)、ASEAN、欧米、豪州

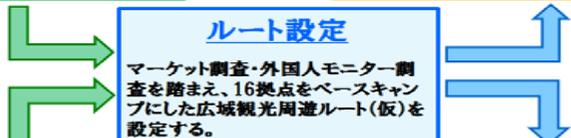


【平成27年度事業】

2016年3月末

マーケット調査
16の広域観光拠点地区を中心に、四季をはじめとする東北の「ならでは」を整理し、対象国・地域に合わせてコンセプトを磨き上げる。

多言語ホームページ
対象国・地域別の広域観光周遊ルート専用サイトを開設。人気コンテンツなど外国人目線で整理・選定した情報を掲載する。



外国人モニター調査
外国人留学生の協力により、出身国・地域の嗜好に合わせた旅行手段、PR媒体、魅力的なコンテンツ等の発掘調査を行う。

多言語ナビゲーション
ウェブ上から、利用者にとって最適な観光ルートを自動的に作成・案内できるシステムを導入。電車・バス等の二次交通情報も織り込む。

ビジット・ジャパン(VJ)地方連携事業

- 国と地方(自治体及び観光関係団体等)が広域に連携して取り組む訪日プロモーション事業。
- インバウンドに取り組む地域の連携を促し、訪問地の多様化を図ることにより、訪日リピーターの地方への拡散、需要の拡大を実現。
- 海外メディアや旅行会社の東北への招請、現地旅行博出展・セミナーや広告宣伝を実施。



ブローガー視察



旅行博出展



商談会



広告

東北ブランドの発信

〔桜と雪の回廊〕

- 桜と雪の回廊を同時に楽しめるという東北ならではの魅力について、海外旅行会社やメディアの視察を通じて、ツアー商品造成、旅行需要の喚起を図ることとし、毎年集中的に実施。



メディア取材の様子

〔風評被害の厳しい韓国市場への取組〕

- SIT(スペシャル・インタレスト・ツアー:特定の関心を満たすための旅行)は、目的がはっきりし、比較的風評の影響を受けにくいとされる。
- 韓国で人気があり、東北の魅力でもあるトレッキングに特化したプロモーションを実施。



メディア取材の様子

＜韓国旅行会社大規模視察の実施＞

- JNTOの支援を受け、韓国旅行業協会の会員約380社による東北視察ツアーを実施。



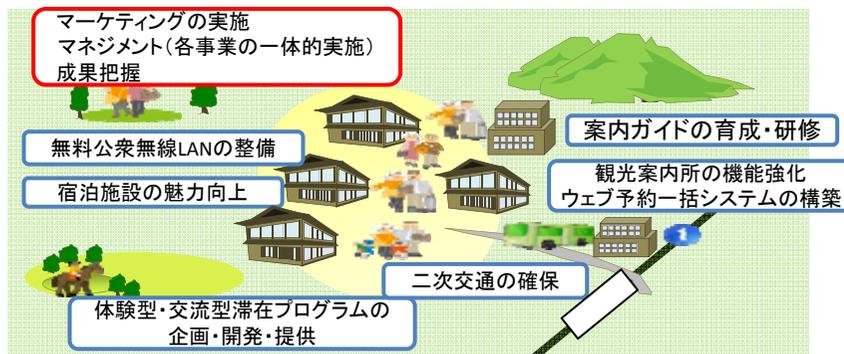
視察の様子



トレッキング記事掲載

地域資源を活用した観光地魅力創造事業

地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるため、歴史的景観、美しい自然、海洋資源、豊かな農山漁村、魅力ある食文化等の観光資源を活かした地域づくり施策と、体制づくり、受入環境整備、二次交通の充実等の観光振興のための施策を一体で実施。



東北における事業

◇陸前高田市

震災の経験、ひと・町の復興プロセスを活かした観光振興

◇山形おきたま地域

6次産業化の取組みによる加工品・土産品、秘湯を活かした観光振興

◇白石市

城下町の文化体験を白石で完結できる仕組みを構築

◇会津若松市

会津の武家文化・建物等を活かした観光振興

日本東北六県感謝祭の開催

東日本大震災の復旧・復興に対する台湾からの支援に感謝するとともに、未だ知名度が低い東北の魅力台湾の消費者に直接発信する東北6県の官民が一体となった東北観光PRイベントを開催。

【イベント開催概要】

- イベント名称: 第2回「日本東北六県感謝祭」(日本東北遊楽日)の開催
- 主催: 日本東北六県感謝祭実行委員会(東北観光推進機構、日本観光振興協会東北支部、東北運輸局、東北6県)
- 開催日時: 平成27年12月4日(金)~6日(日)の3日間
- 開催場所: 華山1914(台北市)
- 主な実施内容:

○ステージアトラクション

なまはげ太鼓等の伝統芸能や現地著名人による東北魅力のトークライブ、東北旅行商品の説明会等を実施。

○ブース出展

四季の魅力等の東北の魅力発信を中心とし、県、JR東日本、現地旅行会社等のブースで各地の魅力や具体の旅行商品を発信。

■ 結果

- ・3日間で、約5.1万人が来場。
- ・現地旅行会社12社により、16本の東北商品を造成・販売し、2万枚を超えるチラシ配布、約500件の問い合わせがあった。



震災からの観光復興(東北地域観光復興対策事業)

1. 情報発信の強化

- ポータルサイトを活用した地域の最新情報を発信
- 復興商店街スタンプラリー等の各種媒体を活用した広報展開



2. 震災の記憶の風化防止

- 語り部・ガイド等の育成、データベース化
- 震災をテーマにしたシンポジウム等による啓発活動



3. 滞在・交流の拡大支援

- 地域主体で観光復興を推進する体制づくりの促進
- 滞在プログラム等の発掘と旅行商品造成支援
- モニターツアー等による送客及び旅行商品化支援



- 東北の空港への直行便や乗継便を活用するという視点と、旅行者数が多く地理的・時間的に近い東京や北海道から一足伸ばしてもらうという視点のもと、東北ブランドを意識し、東北一体となって戦略的な取り組みを行う。
- 具体的には、海外直行便の新設や既存路線の増設、大型クルーズ船の寄港の増加、鉄道・高速バス・レンタカー等による周遊の利便性の向上等による旅行者数の拡大を目指す。
- また、受入環境整備については、外国人旅行者のニーズが高い「無料公衆無線LANの環境整備」や「多言語対応」について、広域観光周遊ルートの形成も踏まえて、旅行者が多いところから重点的に整備するなど東北全体として戦略的に取り組む。

○東北一体となった広域での発信で東北の認知度の劇的な向上。

- ・関係者間でプロモーションする時期やテーマを統一化
 - ・関係者が連携して、戦略的で継続的な情報発信を実施
- 例えば・・・



タイ市場: ソンクラン期(4月)の送客を目指し、桜と雪回廊を強力に発信
韓国市場: 夏の送客を目指し、トレッキングと温泉を強力に発信

○役割分担により、現地ニーズを的確に捉えて、効果を出す。

例えば・・・

【東北側】現地旅行会社に対する東北商品造成、販売の働きかけ、現地旅行会社の要望に対する対応

【現地旅行会社】東北への旅行商品の造成・販売

【JNTO】大規模かつ集中的な消費者向け広告



○東北の将来を見据えた取組への着手。

- ・“日本の奥の院”古き良き日本東北を伝統文化や日本ならではの体験に関心の高い欧米マーケットへ



東北の観光振興に係る予算について

○東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業【新規・復興枠】 (東北観光復興対策交付金) 予算額3,265百万円

東北地方の風評被害を払拭し、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだ訪日外国人旅行者を回復させ、インバウンド急増の効果を波及させることにより、観光を通じて被災地の復興を加速化させる。(補助率:総事業費の8/10)

○福島県における観光関連復興支援事業【復興枠・継続】 予算額266百万円

福島県における早期の観光復興を最大限に促進するため、同県が実施する国内向け風評被害対策及び震災復興に資する観光関連事業に対して補助を行う。(補助率:総事業費の8/10)

○東北地方へのインバウンド推進による観光復興事業【新規・復興枠】 (運営費交付金) 予算額1,000百万円

東北地方の風評被害を払拭し、東日本大震災の影響により大きく落ち込んだ訪日外国人旅行者を回復させ、インバウンド急増の効果を波及させることにより、観光を通じて被災地の復興を加速化させる。

ブロック会議について

○平成27年の訪日外国人旅行者数は、過去最高の約1,974万人(対前年比47.1%増)。

○かつてないペースで訪日外国人旅行者数が伸びていく中、万全に受け入れる体制を充実させることが必要

→ 各ブロックの地方運輸局、地方整備局、地方航空局や都道府県、関係事業者等を構成員とする「訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた地方ブロック別連絡会」を設置・開催し、訪日外国人を受け入れる上での現状と課題をしっかりと把握し、必要な手立てを迅速に講じる。

【訪日外国人旅行者数2000万人の受入に向けた東北ブロック連絡会】

東北運輸局、東北地方整備局、東京航空局、東北6県、仙台市、東北観光推進機構、日本観光振興協会東北支部、日本旅行業協会東北支部、日本旅館協会東北支部連合会、日本ホテル協会東北支部、東北鉄道協会、東北索道協会、東北六県バス協会連合会、東北ハイタク連合会、全国レンタカー協会東北地区連合会、東北旅客船協会、東北経済連合会、東北六県商工会議所連合会、仙台空港ビル、東日本旅客鉄道、国際観光振興機構

【開催状況】

第1回 3月27日 第2回 8月2日 第3回 12月16日

道南・東北(青函圏など)観光シンポジウム(仮称)について

北海道新幹線の開業を見据え、東北・道南地域の活性化を図るため、より有効な観光振興方を議論するとともに、魅力的な観光スポットを紹介する。

また、祭り・景勝地・郷土食・地酒等、まだ外国人旅行者に十分知れ渡っていない、地域を代表する観光資源を国内外に向けて強力に発信する。

【イベント開催概要】(予定)

■主催: 観光庁

■開催日時: 平成28年3月下旬

■開催場所: 都内

■主な実施内容: 基調講演及びシンポジウム

日本版「DMO」について

地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役＝「日本版DMO」を各地域で形成・確立

(日本版DMOの役割)

- ①日本版DMOを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- ②各種データ等の継続的な収集・分析
・明確なコンセプトに基づいた戦略の策定
・KPIの設定・PDCAサイクルの確立
- ③関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

観光庁において、「日本版DMO」候補法人の登録を受付中